

2014 年度 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」成果報告書
The 4th Congress of East Asian Association of Environmental and Resource Economics
における研究発表

総合政策学部 4 年 一川 小百合

【活動日程・会場】

2 月 12 日～14 日 韓国・釜山

【活動の目的】

本研究は、衛星画像解析とフィールドワークを通しての社会調査を通して、中国・内モン古自治区における地域開発と環境再生について調査を行い、地域開発と環境再生の両方を実現しようとする現地プロジェクトにおける矛盾と問題点を見つけ、解決策を提案するものである。

今回の活動では、The 4th Congress of East Asian Association of Environmental and Resource Economics (EAAERE) という、韓国で開催された環境経済及び資源管理に関する国際学会の場で研究成果を発表し、専門家や他の参加者から講評やアドバイスをいただき、今度の研究について見直し、研究成果の向上を図りました。

【活動の成果】

今回の学会発表を通して得られた主な成果は、1. 環境問題と経済発展の調和の難しさに対する新たな視点、2. フィールドワーク結果の新たな解析方法、3. 資源管理及び環境経済におけるネットワークの構築となりました。

1. 環境問題と経済発展の調和の難しさに対する新たな視点

今回の国際学会では IPCC の副議長でもあるリー教授などのキーノートスピーチを聞くことができました。ここでは、IPCC の副議長として報告書の作成および編集に携わる中で直面してきた問題の膨大さ、データ解析の難しさなどについて話しました。これを聞き、本研究において重要な参考資料としている IPCC の報告書の裏でどのようなことが議論されているかについて知ることができ、国際問題としての環境問題を理解する難しさと存在する様々な着眼点をさまざまな研究者の発表を通して知ることができました。

2. フィールドワーク結果の新たな解析方法

今後、フィールドワークを行っていくにあたって、現地の状況をしっかりと反映し、正確な解析結果を得るためには、まずサンプル数は必ず最低でも 100 が必要であると貴重

な指摘を受けました。また、社会調査の結果を経済学的な解析方法で分析したデンマークの博士候補の学生による発表を聞き、直接詳しく聞くことができました。貴重な指摘をたくさん受けることができ、今後の研究活動において参考にしていきたいと思っています。

3. 資源管理及び環境経済におけるネットワークの構築

この学会には、資源管理及び環境経済の分野において様々な形で活躍している東アジアの研究者や専門家が集まっており、彼らと直接かかわることで、今後につながるネットワークを作ることができました。また、環境経済を始めとした他の研究分野に触れることで、自らの研究と比較し、新たな視点や課題を見つけるきっかけとなりました。また、**Springer** など論文出版社の編集者ともつながることができ、今後研究内容を世界に発信していく上で、研究内容を出版してもらえる可能性が生まれました。研究を発展させ、より多くの人に知ってもらう上で、この学会を通して構築できたネットワークは研究の大きな助けになると感じています。

【今後の課題】

研究活動の中で主に使用している社会調査と衛星画像解析がどちらもデータの信頼度がまだまだ低いことを痛感しました。まず社会調査においては、データのサンプル数が少なすぎて今のままでは対象地域に関する結論へと十分に導けないと感じ、同時により専門的かつ信頼度が高い解析方法を使用する必要があると感じました。また、衛星画像解析においてはデータ解析の信頼度を上げるためにも、結論に導けるように複数の解析方法を組み合わせると一つの衛星画像を解析する費用があると痛感しています。

研究発表に対する質問やフィードバック、そして同じフィールドで活躍している研究者と話す中でこの研究における課題が明確になったため、今後は研究における次のステップとして考えている政策提案に向けて、新たに紹介された解析方法も導入して、より正確なデータを収集し、研究に更なる磨きをかけていきます。

【終わりに】

研究を通して様々な形でご指導、そしてご支援いただいた巖先生に大変感謝しております。また、研究にご協力していただいた対象地域の方々、フィールドワークに関してご指導いただいたティースマイヤ先生、巖研究室のメンバー、助成金をいただいた湘南藤沢学会様にこのような機会を手助けいただき、心から感謝しております。ありがとうございました。